

酷暑の8月でした

田丸 あけみ

今年は、例年以上の酷暑が続き、各地で熱中症になったというニュースが毎日のように流れ、プールに入っても熱中症になるとの事から、各地でプールの中止も相次ぎました。

アトムでも、5歳児の子ども達は毎年歩いて南小学校内にあるプールまで行くのですが、その30分の道のりでさえ心配になり、今年は初めてバスで移動しました。

酷暑が早く終わってくれる事を待ちわびた年も初めてでした。

子ども達が体験する夏ならではの遊びも、年々減少傾向にあり、室内で過ごす日も多くなりがちですが、工夫しながら、どう夏ならではの遊びを子ども達に体験させてあげるか、頭を悩ませながらの今年の夏でした。

そんな中、毎年8月のこの時期「全国保育団体合同研究集会」(合研)が行われます。

合研とは、保育関係者や保護者が全国から集い、実践発表や保育について語り合う会です。

今年は、大阪で開催され、アトムから上原・上野保育士2名が「大人が育つって何？」というテーマで発表してきました。

当日を迎えるまでに、原稿の練り直しや資料作成など準備を重ねていました。

発表を終えての二人の感想は、「発表して良かった」でした。発表した資料を、アトム事務室に置いています。ぜひお立ち寄り下さい。

以下は、発表者二人の感想です。

第50回 全国保育団体合同研究集会(合研)に参加して

いちご組担任 上野 由美子

我が子の子育て時は、外向きには“ちゃんとやっている母親”を頑張って見せていた私。でも実際は子育ても人生も、うまくいかない事の連続でした。アトムに出会い、人と語る場があることで、自分を見つめる大切さを知り、周りの人からたくさん力をもらってきました。先日の大阪合研で「大人が育つって何？」というテーマで、語る場の大切さや自分を見つめること、人との関係作りについて、懇談会と職員会議での体験をもとに「豊かな保育・子育てをすすめるために保護者が作り、繋がる分科会-働くことと子育て」の分科会で発表をしてみました。この分科会は保護者の参加が多く自分たちは場違いなのでは…と思いながら午後からの分科会に参加。しかし、自分の予想に反し、保護者、保育士双方が参加していたからこそその内容の分科会になりました。

参加者の多くは、人との関係づくりに悩む保護者会に関わる人たちでした。保護者会で、年数回の職員研修時と年度末の保育士の休暇のため、保護者による保育の取り組みを行っているけれど、色々な意見があること。また、園行事の内容などについて保育士に意見を言いたいけれど、園の方針があるだろうから…と躊躇してしまうこと。そして、仕事が休みの日、保育園に預けることに対する保護者の思い…。そんな色々な話を一緒に語り合ううちに、保護者と保育士という立場の違いがだんだん感じられなくなってきました。どの人も、人と繋がりたい、思いを伝えたい…けれど上手くいかず、ぶつかったり悩んだりしているのでした。でも、どうしたらいい？と考え続け、行動し続けていて、諦めの言葉を言う人はいませんでした。